

通 教 月 報

診 療 情 報 管 理 研 究

令和 2 (2020) 年 8 月 号

編 集 武田 隆久
発 行 人〒102-8414 東京都千代田区三番町 9-15
一般社団法人 日本病院会 教育部教育課
TEL 03-5215-6647 (受講生専用)
FAX 03-5215-6648 (受講生専用)
URL <https://jha-e.jp/> ※4月1日より変更

受付時間 10:00~17:00

(ただし、土・日・祝祭日、年末年始は除く)

発 行 日 毎月 1 日

新型コロナウイルス感染流行について思うこと

高橋 長裕

日本診療情報管理学会 副理事長
ちば県民保健予防財団 総合健診センター 顧問

この原稿を書いている7月現在、マスメディアを賑わせている最大の話題は、何といても新型コロナウイルス感染である。このウイルスの公式名称は、国際的には *severe acute respiratory syndrome coronavirus 2* (略称: SARS-CoV-2) であり、疾病の名称が *coronavirus disease* (略称: COVID-19) である。この流行は2019年11月、中国武漢で発生し、あっという間に全世界に拡散、3月11日にはWHOがパンデミック(世界的流行)相当との認識を示した。ちなみに *pandemic* は、*pan-*(すべての)と *demos*(民衆)の合成語 *pan-demos* というラテン語が語源であり、文字通りすべての人々を巻き込むという意味である。現時点で、世界的流行はなかなか収束する気配は見えず、その経済的影響を含めて、悲観的な見解が優勢であるように見える。考えてみると、人類の歴史はウイルスを含めた各種病原体とのせめぎあいの歴史であり、我々は数々の感染症によるパンデミックを経験してきた。14世紀中頃のペストの大流行はヨーロッパの人口の30-40%の命を奪ったと言われ、その後のチフス、コレラ、天然痘などの大流行など、枚挙に暇がない。当時ペストに対する治療法は無論無かったが、人々は都市封鎖という隔離、検疫制度で対応した。今回の新型コロナウイルスに対しても、ロックダウン

(lockdown) という全く同じ方法が取られたことは極めて興味深い。ちなみに検疫を意味する英語は *quarantine* であるが、この言葉はイタリア語で40日を意味する *quaranta giorni* が語源であり、アドリア海に面するヴェネチアの植民都市、ラグーザで本国に入港する前の船を40日間係留し、感染が発生しないことを確認させたことによる。この前の世界的パンデミックは、今から約100年前、1918年から1920年に流行したスペイン風邪(Spanish flu)である。2009年に発生したブタインフルエンザと同じN1N1タイプのA型インフルエンザであるが、世界中で5億人が感染したとされ、死者の数は1700万~5000万人とされる大流行である。このウイルスの起源は、フランス、北米、中国など諸説あるが、たまたま第一次世界大戦の最中であり、戦争に参戦していた各国は、その流行を軍事的な事情から秘密にしたのに対して、中立国であったスペインでの流行は広く報道されたため、「スペイン風邪」という名前と呼ばれるようになったという気の毒な事情がある。日本でも、合計2380万人が感染し、約39万人が死亡しているが、このうち第2波は、患者数は第1波の1割程度であったが、致死率は1.22%から5.29%に増加している。今回の新型コロナウイルスでも第2波には気をつけなければならない。ポストコロナの新しい生活スタイルが盛んに論じられているが、診療情報管理の面ではどうなるのだろう。最大限のセキュリティが求められる情報がどこまでリモートで管理可能か、本気で考える必要がある。

